教育実践発表要項：道徳

新潟西蒲支部・新潟市立漆山学校
川﨑泰洋（平成２５年度）

実践テーマ　　児童の多面的・多角的な見方・考え方を育成するシンキングツールの活用

主張　児童の道徳性を養うためには，物事を多面的・多角的に考えることが大切である。なぜなら，これからの社会で，価値観の多様化傾向は今後ますます強まると予想され，すべての人々が共有できる価値を見出すことが難しくなってくるからである。そのような社会の中で豊かな人間関係を築き子どもたちが社会に適応して生活して行くには，一面的な自己理解では他者と共存していくのは難しいと考える。そこで私は，児童の多面的・多角的な見方・考え方を育成するためのツールとしてシンキングツールを活用する。シンキングツールは考えを書き出して可視化し，思考を組み立てるサポートをする役割がある。シンキングツールを活用することで，児童は自分の考えを可視化し，思考を組み立て，自己を見つめることができる。自己を見つめ，自分の考えをもった児童は対話や協働において他者の考えと自分の考えを比較したり，関連付けたりする。このことにより，児童の多面的・多角的な見方・考え方を育成できると考える。

１　実践テーマ設定の理由

（１）　学習指導要領総則から

学習指導要領解説では，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには，児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり，児童が多様な価値観の存在を前提にして，　他者と対話したり協働したりしながら，物事を多面的・多角的に考えることが求められている。」と述べられている。このことから，道徳の授業では，物事を多面的・多角的に考える学習を通して，価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め，更に自分で考えを深め，判断・表現する力を育むことが大切である。多面的・多角的とは，自己の一面的な考えのみではなく，他者や社会との関わりを踏まえたものである。自分の道徳の授業は，このことを意識して，次のような授業を構想してきた。

①導入：自己を見つめる＝自分の経験や思いから関連付け、考えを深める

②展開：多面的・多角的に考える＝自己の一面的な考えのみではなく，他者や社会との関わりを踏まえて考える

③終末：自分の生き方について考えを深める＝振り返りを通して，道徳的価値の理解と自己理解を深め，これからの生活に生かそうとする

このような授業を実践してきたが，以下のような課題が挙げられる。

（２）　児童の実態から見えてきた実践における課題

①　自己を見つめるための手立て

小学校学習指導要領解説の第２章　道徳教育の目標には以下のような記述がある。

> 自己を見つめるとは，自分との関わり，つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方，考え方と照らし合わせながら，更に考えを深めることである。このような学習を通して，児童一人一人は，道徳的価値の理解と同時に自己理解を深めることになる。また，児童自ら道徳性を養う中で，自らを振り返って成長を実感したり，これからの課題や目標を見付けたりすることができるようになる。

これまでの授業の導入では，「命はなぜ大切なのか」のような発問に対して，自分の考えをノートに記述させていた。児童は何を問われているのか理解できず自分の考えを書けない，または自分の経験を想起して自己を見つめることができなかった。自己を見つめることができない児童は，自分の考えがないままで，その後の対話や協働に深まりが生まれず，物事を多面的・多角的に捉えることができていなかった。

②　自分の考えと他者の考えを比較したり，関連付けたりする手立て

小学校学習指導要領解説の第２章　道徳教育の目標には以下のような記述がある。

> よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには，児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり，児童が多様な価値観の存在を前提にして，他者と対話したり協働したりしながら，物事を多面的・多角的に考えることが求められる。

これまでの授業では，自己をみつめることができた一部の児童の発言のみで授業が進むことが多く，自分の考えと他者の考えを交流させるような学級全体としての対話や協働で考えを練り上げる場が不足していた。したがって，どの児童も自己の一面的な考えのみで，自分の考えと他者の考えを関連付けたり，比較したりすることなく，物事を多面的・多角的に捉えることができていなかった。

③　Ｂ児の実態

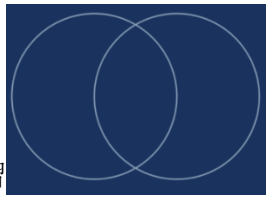
Ｂ児は道徳の授業の導入において，自己を見つめることができなかった。授業中は，友達の考えをノートに写すことはできた。しかし，導入の場面で自分の考えをもてないために，自分の考えと他者の考えとを関連付けたりして，多面的・多角的な見方・考え方をすることができず，道徳的価値の深まりが見られなかった。

そこで，このような児童の多面的・多角的な見方・考え方を育成するためのツールとしてシンキングツールを活用する。シンキングツールは考えを可視化し，思考を組み立てるサポートをする役割がある。考えが可視化されたことにより自分の考えと他者の考えを比較したり，関連付けたりすることができ，多面的・多角的な見方・考え方を育成できると考えた。

学習指導要領の総則，授業の構想，①～③の児童の実態を踏まえ，児童の多面的・多角的な見方・考え方を育成するべく，シンキングツールを活用する。シンキングツールは授業の導入で行う考えの可視化，展開で行う対話・協働におけるツール，終末で行う整理・深化として授業全体を通して活用する。

２　実践内容

（１）ベン図【実践１】



（図１　ベン図）

ベン図は「比較する」ことを助けてくれるシンキングツールである。複数の対象を比べ，共通点や相違点を明らかにし，考えをつくり出すことができる。学習前の自己の考えと学習後の考えを比較させた。

授業全体（導入・展開・終末）を通して，児童が自分の考えを整理・比較するためのツールとして活用することで，多面的・多角的な見方・考え方を育成しようと考えた。

（２）Ｙチャート・Ｙチャート（共有ノート）【実践２】

（図２　Ｙチャート）

Ｙチャートは「多面的に見る」「分類する」ことを助けてくれるシンキングツールである。予め視点を設定しておくことで，それぞれの視点から多面的に見ることができる。Ｙチャートでは個人の考えを分類することに活用した。また，Ｙチャート（共有ノート）ではグループで話合いをするときに多面的に見るために活用した。更に，他グループの話合いの様子を見ることができるようにした。

授業全体（導入・展開・終末）を通して，児童が自分の考えを整理し，自分の考えと他者の考えを比較するためのツールとして活用することで，多面的・多角的な見方・考え方を育成しようと考えた。また，Ｙチャート（共有ノート）はグループで話合いをするときに，考えを多面的に見るためのツールとして活用した。更に，他グループの意見や話合いの様子を見ることができるため，より多くの考えに触れることができ，より多面的・多角的な見方・考え方を育成できると考えた。

（３）Ｙチャート・Ｘチャート【実践３】

（図３　Ｘチャート）

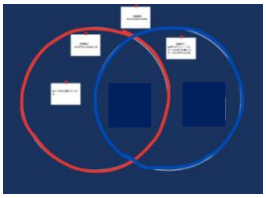
Ｙチャート・Ｘチャートは「多面的に見る」「分類する」ことを助けてくれるシンキングツールである。予め視点を設定しておくことで，それぞれの視点から多面的に見ることができる。Ｙチャートでは個人の考えを分類することに活用した。また，Ｘチャートは紙媒体とし（以下「Ｘチャート（紙面）」とする），グループで話合いをするときに多面的・多角的に見るために活用した。

Ｙチャートは授業全体（導入・展開・終末）を通して，児童が自分の考えを整理し，他者の考えと比較したり，関連付けたりするためのツールとして活用することで，多面的・多角的な見方・考え方を育成しようと考えた。また，Ｘチャート（紙面）はグループで話合いをするときに，多面的に見るためのツールとして活用した。

３　実践の実際

【実践１】抽出時：Ｂ児　主題　Ａ（１）善悪の判断，自律，自由と責任「うばわれた自由」

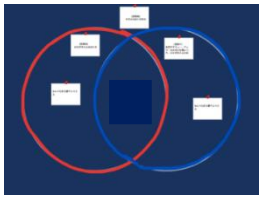
（１）授業の実際



（図4　自由とは何かについて記述したＢ児のベン図）

①導入：学習前に自分が考える自由について問い，ベン図の左側に書かせる。

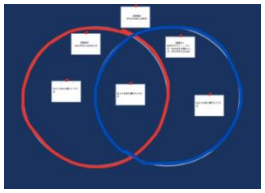
授業の導入で，「自由とは何ですか。」と問い，ベン図の赤色左側に記入させた。これは，左側に学習前の自己を見つめさせ，学習の終末で学習前の自分と比較させたり，関連付けたりすることを狙いとした。Ｂ児は「何でも好き勝手できること」という自分が思う一面的な自由のみを記入した。このことから，Ｂ児は自分の経験から自己を見つめることができたと捉える。



（図5　学習後に自分が考える自由について記述したＢ児のベン図）

②展開：学習後に自分が考える自由について問い，ベン図の右側に書かせる。

発表や教材文朗読後，「友達やガリュー，王子ジェラールの自由を聞いて自分が考えていた自由と変わったことはありますか。」と問い，ベン図の青色右側に記入させた。これは，右側に学習後の新たな気付きを書かせることで，学習前の自分と比較させることを狙いとした。Ｂ児は最初と同じ「何でも好き勝手できること」と記入した。このことから，自己の一面的な考えから抜け出せず，他者や社会との関わりを踏まえた考えに変化していないと捉える。



（図6　自分が考える自由について記述したＢ児のベン図）

③終末：最後に自分が考える自由について問い，ベン図の中央に書かせる。

授業の最後，「自分が考える本当の自由とは何ですか。」と問い，ベン図の中央に記入させた。これは，学習前と学習後の自分の考えの変化を比較し，自分の「自由」に対する道徳的価値の深まりを自覚させることを狙いとした。Ｂ児は学習の最初と同じく「何でも好き勝手できること」を記入した。このことから、Ｂ児は１時間の学習を通して考えに変化や深化が見られず，多面的・多角的な見方・考え方ができなかった姿と捉える。

（２）成果：○と課題：▲

○　シンキングツールを使うことで，教師の発問を可視化することができ，何を問われているかが分かり、自己を見つめ，自分の考えをもつことができた。

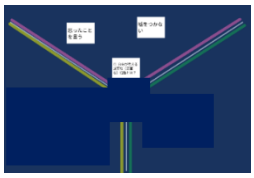
▲　全体として，学習前には自分が思う一面的な自由のみを記入していた児童が多かったが，シンキングツールで他者の考えも可視化したことにより，他者の考えと合わせ，教材文から新たなことに気付いた児童が多かった。しかし，B 児は自己の価値観が強く残った。それは，意見を発表するのみで自分の考えと他者の考えを比較したり，関連付けたりするような話合いの場を設定しなかったからだと考える。そのため，B 児は多面的・多角的に道徳的価値を捉えることができず，深まりが見られなかった。

（３）課題を受けての改善策

自己を見つめるという点では，シンキングツールの活用は有効であったが，多面的・多角的な見方・考え方ができていなかった。シンキングツールを対話のツールとして取り入れ，話合いを活発にすることが必要である。

【実践２】抽出児：B 児　主題　A（２）正直，誠実　「手品師」

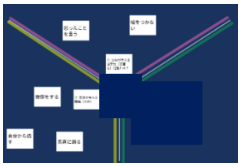
（１）授業の実際


(図7　誠実とは何かについて記述したB児のYチャート)

①導入１：学習前に自分が考える誠実さについて問い，Y チャートの上側に書かせる。

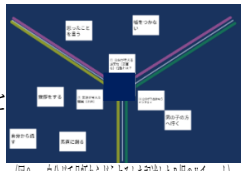
授業の導入で，「自分が考える誠実な行動とは何ですか。」と問い，Y チャート桃色上側に記入させた。これは，上側に学習前の自己を見つめさせ，学習の終末で学習前の自分と比較させたり，関連付けたりすることを狙いとした。B 児は「思ったことを言う」「嘘を付かない」と記入した。このことから，B 児は自分の経験から自己を見つめることができたと捉える。

②導入２：友達が考える誠実さについて，Y チャートの左側に書かせる。


(図8　友達の考えを書いたB児のYチャート)

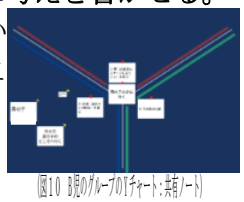
自分の考えを記入後，グループで意見交流を行い，自分にない考えを黄色左側に記入させた。これは，友情について多面的・多角的に捉えさせることを狙いとした。B 児は友達の意見から取り入れた新たな気付きを Y チャートに付け足した。それが「挨拶をする」「自分から話す」「素直に謝る」である。このことから，B 児は自分の考えにはなかった道徳的価値を見出したと捉える。

③展開１：自分が手品師ならどうするか問い，Y チャートの右側に書かせる。


(図9　自分が手品師ならどうするかを記述したB児のYチャート)

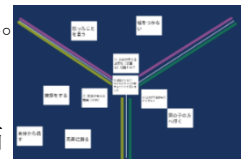
教材文朗読後，「自分が手品師ならどうしますか」と問い，Y チャートの緑色右側に記入させた。これは，学習前の自分や友達の友情についての価値を踏まえて考えさせることを狙いとした。B 児は「男の子の方へ行く」と記述した。このことから，自分の夢よりも約束を守ろうとする他者意識が生まれたと捉える。

④展開２：グループで話合いをし，考えを１つにまとめ，Y チャート（共有ノート）の中央に考えを書かせる。


(図10　B児のグループのYチャート：共有ノート)

自己を見つめ，自分の考えをもった後，グループで共有ノートの Y チャートを使って話合いをした。共有ノートの Y チャートは，他者の考えを多面的・多角的な見方・考え方で捉えることができるようにするためのツールとして活用した。B 児のグループは B 児の考えと同じ「男の子の方へ行く」という考えになった。

⑤終末：最後に自分が考える誠実さについて問い，Y チャートの中央に書かせる。


(図11　誠実さとは何かを記述したB児のYチャート)

授業の最後，「自分が考える誠実さとは何ですか。」と問い，Y チャートの中央に記入させた。これは，学習前と学習後の自分の考えの変化を比較させ，自分の「誠実」に対する道徳的価値の深まりを自覚させることを狙った。B 児は最初の自分の考えにはなかった「ちゃんと考えて行動すること」と記入した。このことから、B 児には最初に自分が持っていた道徳的価値が変容したと捉える。

（２）成果：○と課題：▲

○　シンキングツールを使うことで，自己を見つめ，自分の考えをもつことができた。その後，自分の考えをもてた状態でグループでの話合いに参加できた。また，共有ノートを使うことで，自分のグループ以外の話合いの内容を見ることができた。このことにより，自己の一面とは違う多面的・多角的な見方・考え方ができ，道徳的価値に変容が見られた。

▲　シンキングツールを使うことで，自分や他者の考えを可視化でき，道徳的価値に変容は見られたが，「ちゃんと考えて行動すること」という記述から登場人物と自己の生き方という視点では，道徳的価値が深まったとは言えないと考える。

（３）課題を受けての改善策

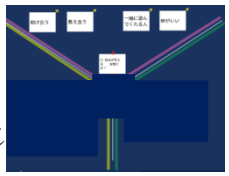
自己を見つめること，話合いにより他者の考えから多面的・多角的な見方・考え方ができるという点ではシンキングツールは有効であったが，道徳的価値の深まりを目指すには登場人物の視点で多面的・多角的な見方・考え方ができるシンキングツールの活用が必要である。

【実践３】抽出児：B 児　主題　B（１０）友情，信頼　「ロレンゾの友達」

（１）授業の実際

①導入１：学習前に自分が考える友情について問い，Ｙチャートの上側に書かせる。

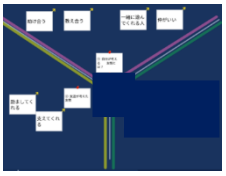
授業の導入で，「自分が考える友情とは何ですか。」と問い，Ｙチャート桃色上側に記入させた。これは，上側に学習前の自己を見つめさせ，学習の終末で学習前の自分と比較させたり，関連付けたりすることを狙いとした。Ｂ児は「助け合う」「教え合う」「一緒に遊んでくれる人」「仲がいい」と記入した。「一緒に遊んでくれる人」や「仲がいい」という自分の経験から感じた自己の一面的な友情と「助け合う」「教え合う」という他者との関わりを踏まえた友情を記入した。このことから，Ｂ児は自分の経験から自己を見つめることができ，多面的・多角的にも考えることができたと捉える。



（図12 友情とは何かについて記述したＢ児のＹチャート）

②導入２：友達が考える友情について，Ｙチャートの左側に書かせる。

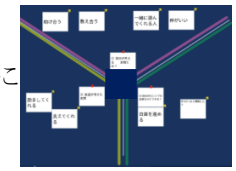
自分の考えを記入後，グループで意見交流を行い，自分にない考えを黄色左側に記入させた。これは，友情について多面的・多角的に捉えさせることを狙いとした。Ｂ児は友達の意見から取り入れた新たな気付きをＹチャートに付け足した。それが「励ましてくれる」「支えてくれる」である。このことから，Ｂ児は「相手のために何ができるか考えること」が友情であるという道徳的価値を見出したと捉える。



（図13 友達の考えを記述したＢ児のＹチャート）

③展開１：自分がロレンゾの友達ならどうするか問い，Ｙチャートの右側に書かせる。

教材文朗読後，「自分がロレンゾの友達ならどうしますか。」と問い，Ｙチャートの緑色右側に記入させた。これは，学習前の自分や友達の友情の価値を踏まえて考えさせることを狙いとした。Ｂ児は「自首を勧める」「ダメだったら警察に言う」と記述した。Ｂ児の記述は導入２で見出した「相手のために何ができるか」という道徳的価値に基づいた考え方であると捉える。



（図14 自分がロレンゾの友達ならどうするか記述したＢ児のＹチャート）

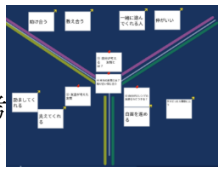
④展開２：グループで話合いをし，考えを１つにまとめ，Ｘチャートの中央に考えを書かせる。

Ｙチャートで自己を見つめ，自分の考えをもった後，グループで意見を発表し合った。その後，考えを書いた付箋を紙面のＸチャートに貼り，考えを１つにまとめるための話合いを行った。紙面のＸチャートは，登場人物の視点に立って多面的・多角的に見るためのツールとして活用した。Ｂ児のグループでは，「自首を勧め，納得しなければ逃がす」という考えになった。これには，Ｂ児の考えになかった「納得しなければ逃がす」が含まれていた。

（図15 Ｂ児のグループのＸチャート）

⑤終末：最後に自分が考える友情について問い，Ｙチャートの中央に書かせる。

授業の最後，「自分が考える本当の友情とは何ですか。」と問いＹチャートの中央に記入させた。これは，学習前と学習後の自分の考えの変化を比較させたり，関連付けたりすることで自分の「友情」に対する道徳的価値の深まりを自覚させることをねらった。Ｂ児は最初の自分の考えにはなかった「助け合い信じ合う」と記入した。「信じ合う」というのは，グループでの話合いの際に，他グループから出た考えである。このことから、Ｂ児は最初に自分が持っていた「助け合う」という他者との関わりを踏まえた価値観に「信じ合う」という自分にはなかった他者の考えを踏まえた道徳的価値を見出した。このことは，Ｂ児が多面的・多角的に考え，自分の道徳的価値を深めた姿と捉える。



（図16 友情とは何かを記述したＢ児のＹチャート）

（２）成果：〇

〇　Ｙチャートで自分の考えを整理させ，グループで話合いをする場面では，シンキングツールのＸチャート（紙面）を活用した。Ｘチャートのシンキングツールを活用することで，登場人物の視点に立ち，相手意識が生まれ，多面的・多角的な見方・考え方で話合う姿が見られた。このことにより，Ｂ児の「友情」に対する道徳的価値の深まりが見られた。

４　実践を振り返っての成果：〇と課題：▲

〇　シンキングツールを活用することで，自分の考えを可視化し，思考を組み立て，自己を見つめることができた。自己を見つめ，自分の考えをもった児童は対話や協働において他者の考えと自分の考えを比較したり，関連付けたりすることができた。シンキングツールには，①思考の可視化，②思考の組み立てによる考えの明確化，③自分の考えと他者の考えを比較したり，関連付けたりすることによる整理・深化の効果が見られた。これらの３つの効果により，シンキングツールは児童の多面的・多角的な見方・考え方を育成することに有効であった。

▲　シンキングツールは様々な種類があり，道徳的価値や教材の内容によってシンキングツールの効果が最大限発揮できるよう工夫していく必要がある。

５　引用・参考文献

・文部科学省（２０１８年）小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編

・永田繁雄（２０１６年）小学校　新学習指導要領の展開

・黒上晴夫（２０１９年）思考ツールでつくる　考える道徳